

「日本は老人天国になる？」

エッセイスト 風間佳

2014年には、日本は、
65才以上の人口が全人口の25%以上になり、
日本人の4人に1人は65才以上という社会になるらしい。

そうすると、その頃になると年金をもらう人の割合が多くて、
年金制度を支える人、つまり掛金を払う人の割合が少ないので、
高齢者の生活は年々楽ではなくなる。
今の40代・50代の人が高齢になる時は、今の高齢者よりも生活が大変になる。
・・・という話はよく耳にする。

「いや、そうとは言えない」という話を聞いた。
逆に、その頃には高齢者が住みやすい社会になっているはず、と言うのだ。
なぜかというと、
65才以上が25%を占める世の中は、社会の主導権を高齢者が持つと言うのだ。

例えば、政治にしても、有権者数を比べればそのことは一目瞭然であり、
しかも、若者は政治に興味がなく選挙にも出掛けないが、
高齢者は時間は充分あり、社会にも関心があるから積極的に選挙に出掛ける。
そうなれば、必然的に高齢者に人気のある政治家が当選し、
政治家はこぞって高齢者が喜ぶ政策を掲げる。
だから、高齢者にとって住みやすい世の中になる、と言うのだ。

日本は、今の北欧のように老人天国になるかもしれない。
そうなった時に、健康でなければ楽しめない。
趣味や生き甲斐がなければつまらない。
そして、ある程度のお金がなければ満喫できない。

今、40代・50代の方は、老後に大きな夢を持って、
今から、健康維持に努め、趣味を探し、生き甲斐を作り、資金作りにも精を出そう。
もしかしたら、バラ色の老後が待っているかもしれない。

E1B-0030-rogo

